

アジアに賭ける中小企業

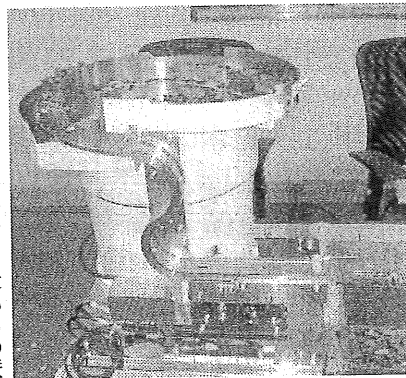
11

日本貿易振興機構
(シエトロ)
上席主任調査研究員

福良俊郎

大阪府守口市に本社を置くシマテック(資本金1000万円、従業員7人)は1969年創業のパーツファイダー・省力化機械メーカーである。業界は小規模企業が多く、職人の高齢化、後継者不足が問題となっている。「このままでは技術の継承ができない」と考えた同社は海外進出を決意、フィリピン・マニラに初の海外工場を開設した。

シマテックがフィリピンを選んだのは、地理的に日本から近いが同業他社が未進出、英語でのコミュニケーションが可能、コンピュータを利用した設計(CAD)システムを使える人材の採用が容易などの理由による。同社は08年2月、シエトロ・マニラのビジネスサポートセンター(BSC)に入居、アドバイザーとの6カ月にわたる二人三脚により現地生産拠点立ち上げにこぎ着けた。



フィリピンで初めて製作されたパーツファイダー

● シマテック(大阪府守口市)

工場予定地は、日本からの派遣員の通勤の便などからマニラ空港近くに決めたものの、貸し工場のオーナーが営業許可を持っていなかったため行政手続きに時間がかかり、また、電気や水の供給の問題から予想を上回る設備投資が必要になるなど、想定外の事態にも遭遇した。

しかし、BSCアドバイザーの具体的な助力もあって問題を一つひとつ解決、08年10月には現地法人の登記を完了した。現在は日本から派遣の常駐者1人、現地採用者10人の体制で事業を展開している。また、現地社長を兼ねる本社の専務が月に

1回程度の頻度で出張している。

当初、海外進出の目的はフィリピンで生産した製品を日本に輸入し国内で販売することであった。しかし、フィリピンでは他にパーツファイダーメーカーがないということもあり、同国に進出している日本や欧米の電子・精密機器等の大手メーカーとの取引が広がり、進出前に「生産拠点」と考えていたフィリピンが実際には「市場」にもなった。フィリピン市場での競争相手は低価格を武器とする中国メーカーだが、シマテックは品質の良さをアピールし安定した受注を続けている。

シマテックは将来的に、日系メーカーの集積が進み需要の大きいタイへの進出に魅力を感じるといふが、当面はフィリピンでの事業拡大に注力する方針である。これは、同社進出以前に香港などからの調達を余儀なくされていた日系企業などを中心顧客開拓余地が大きいと判断されるからである。また、職人一人ひとりがすべての製造工程をこなすことができるよう、技術指導を徹底する必要がある。同社にとって、海の向こうへの技術承継の取り組みはまだ始まったばかりである。

技術承継狙い海外進出